



め、お年寄り同志のサークルを広い地域で、もっと盛んにして、張りのある、楽しい生活を送れるよう心を配ってあげれば良いのではないかと思います。

それから、障害を持つ人々は、きっと世の中で人々に奇異の目で見られ、そして同情されているのではないのでしょうか。思うに同情するという事で、かえって相手を傷つける事が、ままあるのではないのでしょうか。僕自身怪我をした時など、何もできない自分を齒がゆく、そしてかなり情けなく思ったものです。

同情をしても、その人の立場にはなれないのですから、その人たちのために、でき得る限りの事をしてやればよいと思います。

たとえば、図書館にある目の悪い人のための、名作のカセットも、名作だけでなく、もっとバリエーションを増やす事や、電動の車椅子を支給したりする事や、身体障害者専用の運動施設を作ったりする事も、もっと積極的にすれば良いと思います。点字広報の他に、点字の図書館も開く計画のようですがとても良い事だと思います。

そして障害を持つ人々も普通の人と同じように、明るく暮らせるような市になってほしいと思います。僕が、最後に富士市に望む事は、教育、文化が更

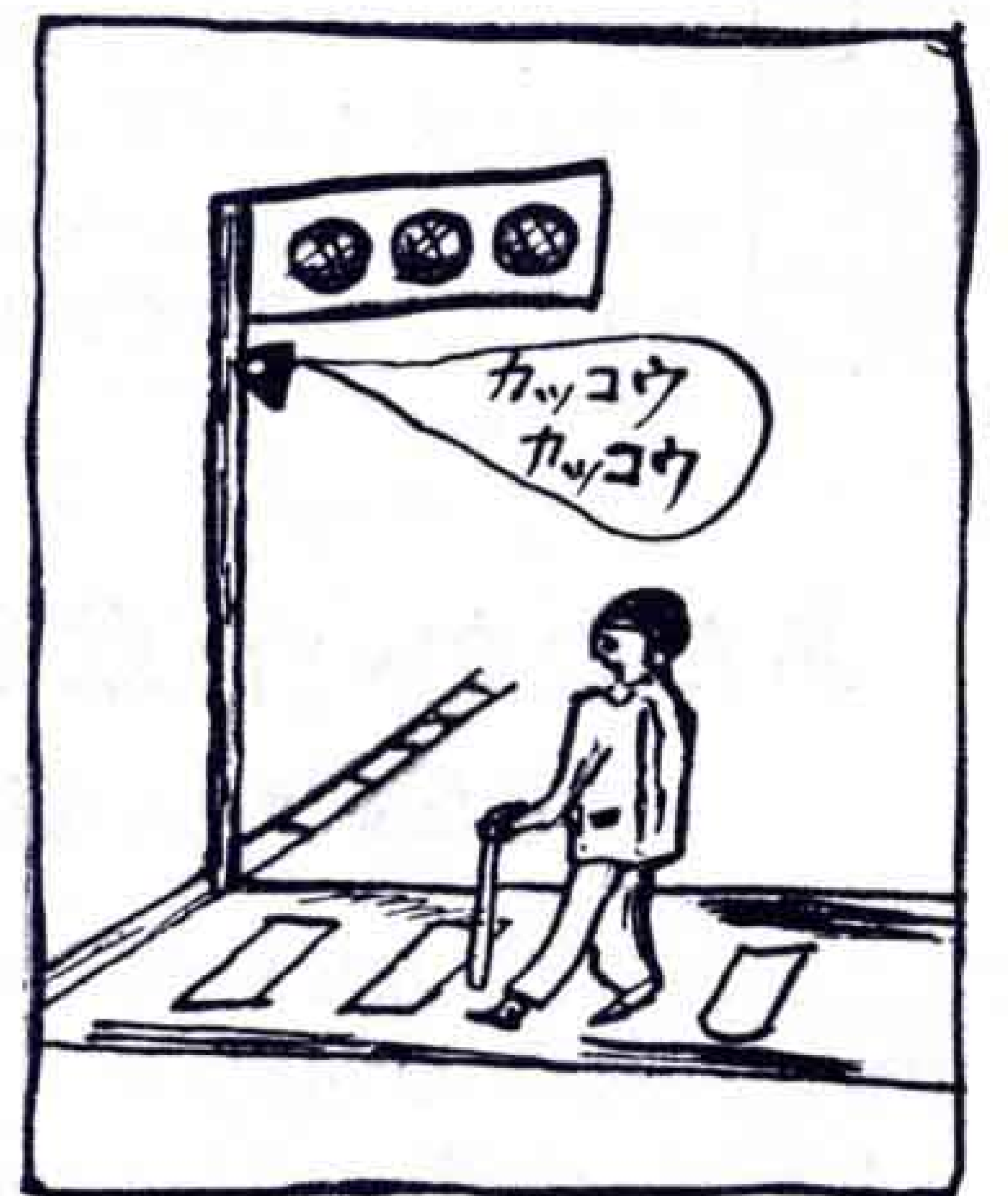
に発展する事です。そのために、図書館の数をもっと増やして欲しいし、移動図書館も、もっと保有台数を増やして欲しいと思います。

また、現在富士市の歴史や民話、伝説などの本が出まわっていますが、このたぐいの本も、各校の図書館で利用し、生徒たちの、郷土についての興味を深めさせてあげたら

どうでしょうか。計画では、芸術文化のため、郷土資料館というものを作るそうですが、そういう事も含めて、郷土の歴史の再確認をするのはとてもすばらしい

事だと思います。僕の理想とする富士市像は、緑がいっぱいで、それでいて文化的で、全ての人々が皆明るく生活していく都市なのです。

自然と調和しながら発展していく町、活気に満ちた町、そういう富士市になってほしいと僕は思います。



## 縄文時代中期のお墓を発見

### 第7次天間沢遺跡の発掘調査

市教育委員会は、市立天間幼稚園の運動場拡張場所1,053平方メートルが、「天間沢遺跡」になっているため、10月3日から11月30日までの予定で発掘調査をしました。

天間沢遺跡の発掘調査は、昭和35年の第1次調査を皮切りに第6次まで実施され、今回が第7次調査です。第6次までの調査では、古墳時代の住居址5ヵ所と縄文時代中期の住居址16ヵ所、扇形配石遺構や多数の土器と石斧などが発見されています。今回の調査では、今からおよそ4,000年から5,000年くらい前の縄文中期の住居址が3ヵ所、配石遺構（お墓）が7ヵ所と、埋瓶（縄文式土器）2個が完全な形で発見されました。

この天間沢遺跡発掘調査にたずさわってきた、県教育委員会の植松章八調査員は、「今回の調査場所は、

配石遺構がたくさん発見され、当時の墓地であったことが確認されます。またこの遺跡は、縄文時代中期の生活様式を知るうえで貴重な遺跡です」と話しておられました。



【写真・完全な形で出土された埋瓶】